



諸俣

軒の栗

全

中村俊定文庫

文庫 18

498



夢中菴坐翁圖
子興寫之



序

むし一芭蕉の存産ともは武のときとては夏の秋
風吹く白河の関より里のわが書きし引り
あきと次賀川の秋は河系等躬を尋てあはく
臨終といひしはしとあきあはり大なる粟
の末産を頼り世といふ傍あり落一日後を経て
彼函柄のあはしとあきあはり且行基井のいひ
あしあきと一巻とあしあはり美思れしはは徳と
包り終るひと撰集あはる世といひのこれと

伯宗もて撰馬うきしは徳とあはり又徳のまは
成へし安きみらけく思慮の人を彼存れ風骨を
あきあはり八十年乃古きと梓あはりあはり水く
あはり俳脈とあはりあはりあはりあはりあはり
ういしあはりあはりあはりあはりあはりあはり
あはりあはりあはりあはりあはりあはりあはり

各永三甲年初冬

朝の粟〜 暁をて西風のそねね
事と各永二色のと〜 蕉翁八十とせれ
秋と逢記名の梢をれと迎実のふ時と
正志と〜 是と葵と碑前と〜
之紫の林永くふちりり秋声と〜
こゝろんぬ

昔九月十日

栗父坊



表八句



桃祖

その粟子煙を流ても向りり

十一日乃月子さの〜

石考

胆作ふ覚のぬきうらうん

新粟

糊の弱さうり涼子う〜

桐亭

あらしらとつわな〜 小風呂

旧産

や〜 くら〜

夏曉

色〜 白へ牡丹荀菜おめると

大崩

漢の志砂と書あけの〜

之世

芭蕉翁返俾

建も死ぬるなりく雅岐の枯木か
粟作う松風とくく時多う船

等躬
晋流

粟門可伸ハ粟の木のとく
房を結ハる傳ハる行基井の
いハ西リ流ちる木をり
杖と柱も月ひもひるとも
函栖ちるある方野とそ鉢の
抄云といとたのし

うき世や目たぬむを折れ粟
稀り粟のとく松家あふ

芭蕉
粟女

切落は山の井れ名はまうきて

等躬

時流くひもる石の桐と

芳良

把柄は海ま業は月乃書うま

等書

秋ふり顔の縁屋まゆれを

次竿

梓弓矢の折れ家とかくせう

素業

形書とくめ松曉の声

芭蕉

松齒葉り吹よりりるまの書

粟女

海の遠眼とくあふるか

等躬

聲入古誰り出てとくあふるか

芳良

さびしく遠きる傾城の女
 等々
 貪らと神子恨れつゝかきよ
 次竿
 月のひかりをふりて
 素裳
 ひかりしと新約の山に
 等躬
 笠乃踏をさく乳芽のうら
 粟女
 梅子出く初嫩や芳芽をむれ付
 芭蕉
 うきとや内谷子征鼓おく
 若良
 あらゆる大まをさくくらの声
 素裳
 ありやうこれぬまうくそりた
 等躬

ナラ

まゝ雛をいひたれ道のうら
 次竿
 うえー琴丸様やまをさ
 芭蕉
 うゝ森のさきうゝうゝ津西の中
 次竿
 朴とうゝ新市の海群
 等々
 けり信子之社の徳をいひて
 若良
 繁合まきくハ明六川の陸
 素裳
 伽りある信野の餅をさく
 等躬
 四又日月をそくく
 粟女
 徒子如く甲斐をさるむら
 等々

麻の喜経く糸せぬ宮 菅良

冠とと為ささうりは位高き 芭蕉

うしろり清く文と志 芭蕉

意をいせりし心通て懐い頼 素宗

なまじかたせし一思ぬ 粟舂

入口と四門手法のそ始乃山 菅良

はらぬとむねの道生の垣 菅良

三日月の美やちり帯一雲の帯 菅良

素衣帯の圓れを あはれ

そららりやうとぬん 文考

う川秋や唐紙けを風乃音 枕邊

十麦川のおと文うの舟自い 嵐肝

し川の石よ来ておの 更登

痛さぬを 麦林

各俾歌

塚ゆりて 桐葉

人 旧巻

竹の葉ののりて秋淋し
 一も一此夢やま向の程なく
 鶯のやま月日とも向くさ
 嘆粟の朝や暮り程も向か
 柳葉のぬきり寄け一朝の粟
 うさ声塚や清りり粟は秋
 流介ともふくく月乃程
 芭蕉志やきくさ大津の人通
 水才
 之屯
 る曉
 柳二
 夫氣
 朝粟
 る考
 吉就

ちせ代志や枯枝や雪風の音
 幻の世や繪像の
 ちせ代志や火陣に掃除梅の世
 日
 昔石
 白川
 春水
 柳祖

知聞 名録

ち海くと富士うえりとも為
 うさぬうは水やうねきんほの月
 舞や新さくもとの水あは
 ぬれはらららら加ね松の声
 ち菊や生てのほれサ日らさ
 白
 暮太
 吐月
 雙羽
 文来
 黙寂

去風可しの門まで粟の枯葉外 京 蝶足

人声の遠く水や山さくら 日 依九

菊合て味増はく言や九月 大坂 旧園

家一窓とぬま 日 泉明

中 智列 橋良

溪火の清くそな水や萩北風 日 左蝶

勝より上 住列 承和

うき 徳列 暮人

三つ 紙中七人 麻父

むき 加列 素園

雲の枝 岩列 丑岩

月と空 日 淳東

馬士の腰 尾列 也有

おら 日 木兔

蛇の 日 曉彦

日 卷阿

日 淳木

萬月お香折休一と煙たう

日 志尾

物〜と森辯むして谷鉄の世

仙居 芳角

又月多そ廿日焼うとそ川有お

日 祇川

名月やぬいと世よりおねし

日 丈芝

ほり〜と小多降ううんこ香

日 菊史

名月の中〜う〜出〜花 鳥

日 田山

果〜とる海〜花うぬ〜の香

白石 煮籠

娘〜とるの〜あうやあ菜橋

福橋 東兵

う〜水と汲〜度うんこ香

日 松祖

后間〜と名ふ女やけんこ香

八丁目 菊原

葉〜とぬ月う柳と柳水

長沼 以静

葉おとと嘗た〜や草の香

次加川 晋等

風あ〜と種うせう新橋うね

日 晋榊

春吹や葉〜る水のいろ

長沼 竹里

移書と〜とまぬ物や衣〜

金津 可也

河〜ゆりや池乃ある〜と葉門

日 巨石

鳥〜と〜とあ〜と放生會

三美 三使

物の業りとあて晴たり物の色

日

掬明

倒るる卒塔婆を記に枯れぬ

日

英菊

炭うやまのらの何は方より

日

名物

斤くく水をかうけてる川水

日

柳骨

白雲とそとそとやも鶴居花

日

鱗子

不形也と申りさくくはの秋

日

紫卜

若くして若の姿や進まらぬ

日

吟雅

あまの秋とむあて枯れか

日

魯仲

尺多きむこれ法まらぬ物か

日

兔友

あまの川越して里のなぬか

日

赤水

あまの川越して里のなぬか

日

赤水

あまの川越して里のなぬか

日

可立

あまの川越して里のなぬか

日

冬花

あまの川越して里のなぬか

日

紫室

あまの川越して里のなぬか

日

馬鹿

あまの川越して里のなぬか

日

其白

あまの川越して里のなぬか

日

羽冥

あまの川越して里のなぬか

日

露秀

下弦く暮れおと静しきまはる
 けりあつと借よはあつた月
 ちの雪や卯のまは垣のぬき
 垣紙りしそ所しと指やまの月
 二三里の居そくえそく様うけ
 けり借よ山まうなふうとみか
 うまうと水しきこりて川
 美も清流し菜種のおわれ
 四巻
 白萍
 大嵐
 水木
 楚琴
 會志
 新葉
 春曉

春はけくあつたあつて清景か
 一あつたあつた探や天体居
 晋風
 之世

あつたあつた細し居の丁
 ぬき蚊のこもくあつた宵のあ
 ちの雪や卯のまは垣のぬき
 ちの雪のこもくあつた宵のあ
 雨考
 桐暁
 周二

燈つとくしと果てりし魂まのり
 桃袒

安永三甲午歲十二月

江戸本町三町目
書林西村源六

閑抄